

## 猫車②

(1) 父を殿様に殺されたお千代、孝七の姉弟は、泣く泣く父のノベオクリを済ませました。百か日の供養も済んで、骨をうずめて

(2) 「姉ちゃん、オレはくやしくてならないよ。いくら殿様でも罪も無いお父つあんを殺すなんであんまりだ。オレは殿様を殺してカタキをうつよ」「これ孝七、そんなことを言うとは…」

(3) 「話ながら帰って行くふたりのあとをじっと見ている男は権太というナラズモノです。「あの姉の方をうまくオビキ出して、人買いに売ってしまおう。ようし」

(4) 「へへへへへ、お千代さん今日は。お前さん、いい仕事があるんだ。ちょっとそこまで来てくれないか。なアに手間はとらせないよ」「はい。孝七、せっかく権太さんが言ってくれるから…と、

(5) 「弟を先にかえしてお千代は、オソロシイワナにかかるとも知らず、権太といっしょにいきました。「何だか心配だなア」とウチへ帰った孝七は、

(6) 夜になるまで姉を待ちましたが、かえってきません。「姉ちゃん、おそいなア。あのゴン太というやつはヒョーバンのわるいやつだ。しんばいだなア」

(7) 「ニャオー」「玉か…お前も心配しているのかい。姉さんはどうしたろう」と孝七は玉に言っています。するとスルリと孝七の手をぬけたタマは、

(8) 外へ走り出して行きました。「おいッ、タマ、ドコへいくんだおい」しかしタマは、孝七の制止など聞きません。こちらは

(9) だまされて、ナラズモノのいる家へつれこまれたお千代です。「もうおそいからかえります」「へへへへへ、今夜はとまっていきな。おいッ、にげようたつてにがしはしないぞ」するとこの時

(10) この家の近くにあるきよる一人の娘…あ。これはどうしたことか、カオも形もお千代とそっくり同じではありませんか…果して。